



M コマンド

この章では、M で始まる Cisco Nexus Virtual Services Appliance コマンドについて説明します。

management uplink

フレキシブル ネットワーク アップリンク タイプのデフォルト管理トラフィック インターフェイスの名前を変更するには、**management uplink** コマンドを使用します。

management uplink *interface name*

構文の説明

interface name 管理アップリンク インターフェイスの名前。インターフェイスの名前は、GigabitEthernet インターフェイスまたは Portchannel インターフェイスが考えられます。

デフォルト

なし

コマンド モード

SVS ドメイン コンフィギュレーション (config-svs-domain)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)SP1(4)	このコマンドが追加されました。

例

次に、制御トラフィック インターフェイスの名前を変更する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# svcs-domain
n1010(config-svs-domain)# management uplink GigabitEthernet2
n1010(config-svs-domain)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
network uplink type	ネットワーク アップリンク タイプを変更します。
show network-uplink type	アップリンクの設定を表示します。

management vlan

管理 VLAN を設定するには、**management vlan** コマンドを使用します。

management vlan

構文の説明	<i>vlan-id</i>	新規または既存の管理 VLAN の番号を指定します。有効な範囲は 1 ~ 3967 および 4048 ~ 4093 です。
-------	----------------	---

デフォルト	なし
-------	----

コマンド モード	SVS ドメイン コンフィギュレーション (config-svs-domain)
----------	--

サポートされるユーザーロール	ネットワーク管理者
----------------	-----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、この仮想サービスに制御インターフェイスと VLAN ID 1044 を割り当てる例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# svs-domain
n1010(config-svs-domain)# management vlan
n1010(config-svs-domain)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	control vlan	VSM ドメイン コントロール VLAN の VLAN ID を変更します。
	domain id	ドメイン ID を割り当てます。
	show svcs domain	Virtual Supervisor Module (VSM) ドメインの設定を表示します。
	svs-domain	SVS ドメイン コンフィギュレーション モードを開始します。

media

VLAN のメディア タイプをイーサネットに指定するには、**media** コマンドを使用します。タイプを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

media ethernet

no media

構文の説明

ethernet	メディア タイプをイーサネットに指定します。
-----------------	------------------------

デフォルト

なし

コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション (config-vlan)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、メディア タイプを設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# media ethernet
n1010(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vlan	VLAN 情報を表示します。

mkdir

新しいディレクトリを作成するには、**mkdir** コマンドを使用します。

mkdir {bootflash: | debug: | volatile:}

構文の説明	
bootflash:	bootflash をディレクトリ名として指定します。
debug:	debug をディレクトリ名として指定します。
volatile:	volatile をディレクトリ名として指定します。

デフォルト なし

コマンドモード 任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、bootflash: ディレクトリを作成する例を示します。

```
n1010# mkdir bootflash:
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

mount [physical |virtual]

トラブルシューティングのため外部 USB または CD にアクセスしてログを Cisco Nexus Virtual Services Appliance 内にコピーするには、**mount [physical|virtual]** コマンドを使用します。ディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mount [physical | virtual]

no mount [physical | virtual]

構文の説明

physical	物理的な USB や CD ドライブを指定します。
virtual	CIMC の KVM コンソールからマッピングされる仮想ドライブを指定します。

デフォルト

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)SP1(5.1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

例

次に、外部 USB ドライブへのアクセスをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature auxillary usb
switch(config)# mount physical
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature auxillary	Cisco Nexus Virtual Services Appliance の補助機能をイネーブルにします。

move

あるディレクトリから別のディレクトリにファイルを移動するには、**move** コマンドを使用します。

```
move [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]source-filename
      { {filesystem:[//module/][directory/] | directory/}[destination-filename] | target-filename }
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。名前では、大文字と小文字が区別されません。
<i>//module/</i>	(任意) VSM の ID を指定します。有効な値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<i>source-filename</i>	移動するファイルの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<i>destination-filename</i>	(任意) 移動先ファイルの名前。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。

デフォルト

移動先ファイルのデフォルト名は、移動元ファイル名と同じです。

コマンドモード

任意のコマンドモード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、ファイルのコピーを作成できます。



同じディレクトリ内でファイルを移動することで、ファイル名を変更できます。

例

次に、別のディレクトリにファイルを移動する例を示します。

```
n1010# move file1 my_files:file2
```

次に、別のファイル システムにファイルを移動する例を示します。

```
n1010# move file1 slot0:
```

次に、別の VSM にファイルを移動する例を示します。

```
n1010# move file1 bootflash://sup-remote/file1.bak
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>cd</code>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<code>copy</code>	ファイルのコピーを作成します。
<code>dir</code>	ディレクトリの内容を表示します。
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

mtu

インターフェイスの最大伝送単位（MTU）サイズを設定するには、**mtu** コマンドを使用します。設定済みの MTU サイズをインターフェイスから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mtu *size*

no mtu *size*

構文の説明	<i>size</i> MTU のサイズを指定します。指定できる範囲は 1500 ~ 9000 です。				
デフォルト	1500 バイト				
コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)				
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(4)SP1(1)</td> <td>このコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。				
例	<p>次に、MTU サイズを 2000 に設定する例を示します。</p> <pre>n1010# configure terminal n1010(config)# interface port-channel 2 n1010(config-if)# mtu 2000</pre>				
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>show interface</td> <td>MTU サイズを含むインターフェイスの情報を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	show interface	MTU サイズを含むインターフェイスの情報を表示します。
コマンド	説明				
show interface	MTU サイズを含むインターフェイスの情報を表示します。				

